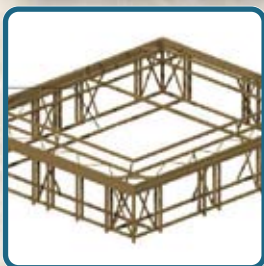
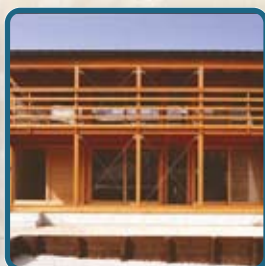


平成
19年度

しまね建築・住宅 コンクール



島根県

はじめに

一言、御挨拶を申し上げます。

平成7年の阪神・淡路大震災後も全国各地で多くの地震が発生し、平成19年においても、3月には能登半島地震、7月には新潟県中越沖地震が発生しました。こうしたことから、我が国におきましては、大地震がいつどこで発生してもおかしくない状況であるとの認識が広がっております。

そこで島根県では、平成19年2月に策定した「島根県建築物耐震改修促進計画」に基づき、耐震対策を総合的に進める「建築物等地震対策促進事業」を創設したところであります。

このたびの「しまね建築・住宅コンクール」は、この事業の一環として、優れた建築技術や地震防災活動等を表彰し、県民及び事業者の皆様方の自主的な取組を促進することを目的として行っております。募集しましたところ、47件もの応募をいただき、皆様方の関心の高さを改めて実感した次第であります。

今回は、最優秀賞の「松江市雑賀八区町内会救助隊」をはじめとして10件が受賞されました。受賞されました皆様に、心からお祝いを申し上げます。

未だに地震を完全に予知することは困難であり、ひとたび発生すれば甚大な被害がもたらされる恐れがあります。こうしたことから、県民一人ひとりが大地震の恐ろしさと悲惨さを十分認識し、自らの命と地域社会の安全を守るため、日ごろから地震に備えておくことが大切であると考えております。

県といたしましても、地震における人的被害の軽減に最も効果的である「建築物の耐震化」に向けて取り組んで参りますので、皆様の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

終わりに、選定をしていただきました審査委員の皆様や、応募をいただいた方々に、厚くお礼を申し上げます。

平成19年11月



島根県知事
溝口 善兵衛

選考総評

審査委員長 熊谷 昌彦

「平成19年度しまね建築・住宅コンクール」においては、47件という多数の応募があり、島根県民の皆様の方々の防災に対する意識の高さをあらわしたものと思われました。

設計提案部門は、耐震補強、耐震診断、耐震改修及び耐震計画等についての提案がありました。審査では、耐震補強・耐震診断については、提案者が独自で開発したか否かが問われ、耐震改修・耐震計画については、今後のモデルとなるかどうかや地域の特性が活かされているかが検討されました。

耐震事業部門は、耐震・制震補強工法、免震構造、耐震診断、耐震改修及び避難誘導製品等について実施されたものが応募されました。審査では、耐震・制震補強工法・免震構造については主に、独自の開発と共に地域の特性を生かしたものとなっているかが検討され、耐震診断・耐震改修については、主に、今後のモデルとなり、波及効果が期待できるものかが検討されました。また、避難誘導製品等の製品の開発については、開発した会社の独自性を検討致しました。

防災活動部門は、町内会・NPO法人・学校と地域の協力や災害時対応等に取り組まれている事例が応募されました。安全で安心して住まいづくりをめざすという点はどの応募物件でも共通していました。「自らの安全は、自らが守る。」これが、防災の基本という視点から、自助・共助を率先して行っておりその活動が今後のモデルとなるものを選定しました。

最優秀賞は、県民意識の防災意識の向上があつてこそ耐震改修の促進が図れるとの考え方から、安全で安心して住めるまちづくりを標榜する「松江市雑賀町八区町内会救助隊」を選定しました。それは、災害基金の準備、講習会の開催、耐震モデル住宅の学習等と積極的に地域の防災活動に取り組まれており、これが自助・共助の防災のまちづくりの原点であり、また、今後のモデルを提供していることが大いに評価され、関心を集めました。

今回表彰した充実した内容となっている提案等が、幅広い視点から検討を得て、県民に親しまれる今後のモデルとなり、防災意識の向上と耐震改修の促進へとつながっていくことを審査員一同期待しています。

審査委員

吾郷 康子
(島根県商工会女性部連合会会長)

小草 伸春
(社団法人島根県建築設計事務所協会会長)

熊谷 昌彦
(米子工業高等専門学校教授)

花坂 義夫
(浜田市建設部長)

原 裕子
(社団法人島根県建築士会女性委員長)

敬称略 / 50音順

審査経過

募集期間

平成19年7月20日～9月20日

募集結果

総数 47件 内訳 設計提案部門 13件
耐震事業部門 26件
防災活動部門 8件

審査 平成19年10月19日

表彰式 平成19年11月16日

最優秀賞

題名 | 松江市雑賀八区町内会救助隊
所在地 | 松江市雑賀町
事業主体 | 雑賀八区町内会 会長 竹内 武夫

提案概要

雑賀八区町内会では「安全で安心して住める町づくり」を基本理念に住民の自主防災組織として救助隊を結成し、以下の防災活動に積極的に取り組んでいます。

1. 町内会費を「一般会計」と「災害基金」とに分別。目標金額70万円－(1所帯／1万円)。
2. 「災害への心構え」の講習会を開催。
3. 災害時のための各種物資が格納されている地区の「災害防災庫」を見学。
緊急時に地域がなすべき行動(非常手当)について検討し、下記の対策を実施した。
 - 1) 救助隊の結成(救助隊長(男・女)の下14名の隊員を配置)
 - 2) 非常食(ビスケット)・飲料水の備蓄(総人口分を5年間保存)
 - 3) 簡易救助担架を作成・配備(10個)
 - 4) 日赤専門講師による救急法(蘇生法)について研修
 - 5) 災害時のトイレ用井戸水の確保
4. 町内の防犯灯を「青色蛍光灯」に全数交換。
5. 耐震モデル住宅学習への取組。

選定理由

安全で安心して住めるまちづくりを基本理念として掲げ、「災害への心構え」の講習会の開催や災害防災庫の見学等積極的な防災に関する知識を得ようとしています。さらに、これらの知識を基にして①「災害基金」の設置、②緊急時に地域がなすべき「非常手当」の検討(救助隊の結成、非常食等の備蓄、簡易救助担架作成と配備、救助法の研修、災害時のトイレ用井戸水の確保等)、③防犯灯の設置、④耐震モデル住宅学習の取組等の具体的な防災対策に結びつける活動が大いに評価されました。



救急法講習会状況



耐震学習会状況

雑賀八区町内会会則

- | | |
|--|--|
| 第1条 名称及び事務局
本会は雑賀八区町内会と称し、事務局は会長宅に置く。 | 付記
(1)～(3)略
(4)「災害基金」
①町内会会計に「災害基金」科目を設ける。
②「災害基金」目標700,000円とし、毎年度積み立てる。
③「災害基金」の用途は、町内の災害救援物資の購入に当てる。
④用途は、町内三役(会長・副会長・会計幹事)で決定する。 |
| 第2条 目的
町内会員相互の親睦融和と福祉向上を図ることを目的とする。 | |
| 第3条 事業
本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
(1)広報、福祉、文化に関すること。
(2)町内の環境整備に関すること。
(3)会員の親睦、慶弔、見舞いに関すること。
(4)災害の備えに関すること。
(5)福祉協力、学校(PTA)、体育協会等諸事業に関すること。
(6)寿会事業・町内婦人会への協力に関すること。
(7)その他 | 付則
本会則は平成2年4月1日から実施する。
本会則は平成10年4月1日から実施する。
本会則は平成11年4月1日から実施する。
本会則は平成16年4月1日から実施する。
本会則は平成17年4月17日から実施する。
本会則は平成18年4月15日から実施する。 |

会則一 災害基金

優秀賞

題名 | しまねの木の家
所在地 | 松江市国屋町
事業主体 | カナツ技建工業株式会社 代表取締役社長 金津 任紀
設計者 | 有限会社 アイエムユウ建築設計事務所 代表取締役 山根 秀明
施工者 | カナツ技建工業株式会社 代表取締役社長 金津 任紀

提案概要

県産材の杉の構造材、無垢材の床、漆喰の内壁、自然石の玄関、浴室の自然素材につつまれ、快適で健康的な生活が出来ることを願った住宅です。

スケルトン・インフィル方式を取り入れ、将来のライフスタイルの変化にも柔軟に対応できる計画としています。内部は階段と吹き抜けを中心にぐるりとまわられる構成となっており一つ一つにつながった空間になっています。

南側のテラスは玄関であり、山陰の天候に配慮した半屋外空間であり、生活スタイルの変化に対応するための増築スペースであり、この建物の特徴づけるものとなっています。

構造の検討は、テラス部分も床面積に含めた形で行い、筋違いは全て建物外周部の壁面にバランスよく設けています。

テラス面に必要となった筋違いは上下階共にステンレス丸鋼による耐震補強金物を使用することにより、耐震的にも象徴的な面となっています。

また、テラスを含めた平面の形状を正方形とすることにより、耐震的にもバランスの良い建物となっています。

選定理由

耐震の視点を持ちながら、鳥根県の特性を生かした建築・住宅の設計であることが期待されました。その点から見ると、①平面を正方形として耐震的にも安心感のあるスケルトン・インフィルの方式を取り入れている、②構造の検討を、テラス部分も床面積に含めた形で行っている点に特徴がある、③県産の杉材を構造材として使用し、無垢材の床・漆喰の壁で快適で健康的な生活をめざしている点が評価されました。



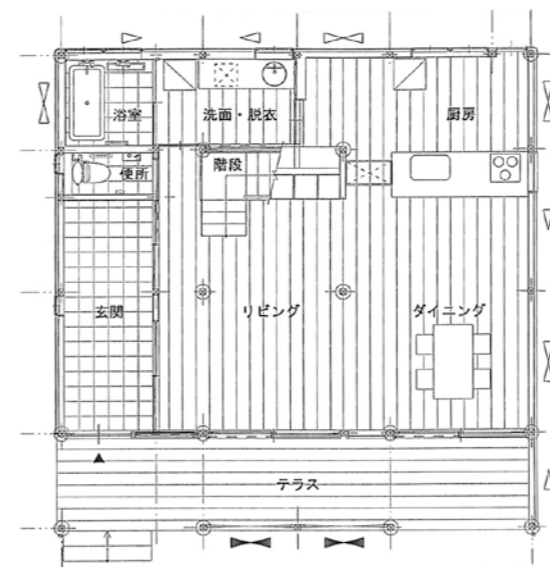
南側外観



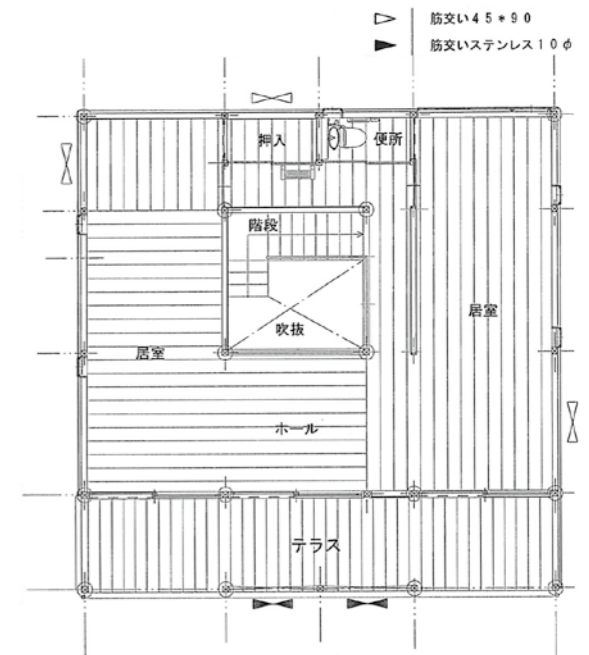
吹き抜部分



内部から見たテラス



1階平面図



2階平面図

優秀賞

題名 | 安国寺本堂改修工事

所在地 | 松江市竹矢町

事業主体 | 宗教法人安国寺 代表役員 赤木 大観

設計者 | 蔵本総建コンサルタント 代表 亀山 英嗣

施工者 | 有限会社角田工務店 代表取締役 角田 米生

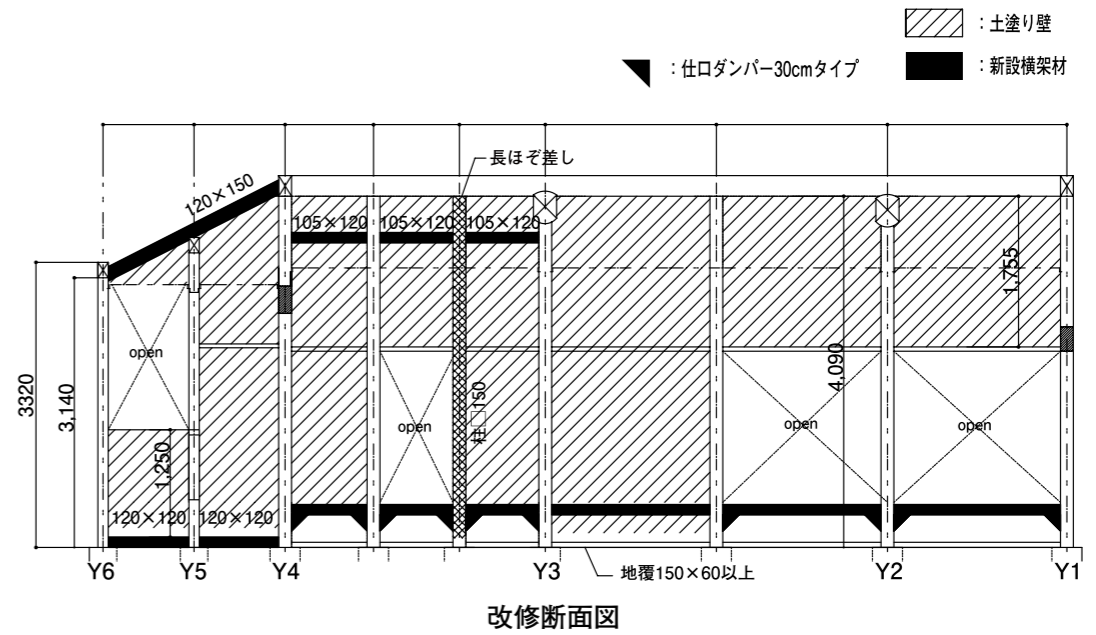
提案概要

— 伝統軸組み建物の優れた特性“変形能力と仕口ダンパー”による耐震補強 —
筋違い類と構造金物により固定することで、金物の強度を高め地震に耐える考え方が現行の建築基準法の基本的な考え方ですが、伝統軸組み組工法は、木材の特性を活かした接合部により大きな変形能力を持ち、鉄材などに比べて小さな強度の素材で構成されながら粘り強く、靱性に富んだ評価されるべき構法です。近年、Eディフェンスにおける実物大実験等により、その性能が検証されているところです。

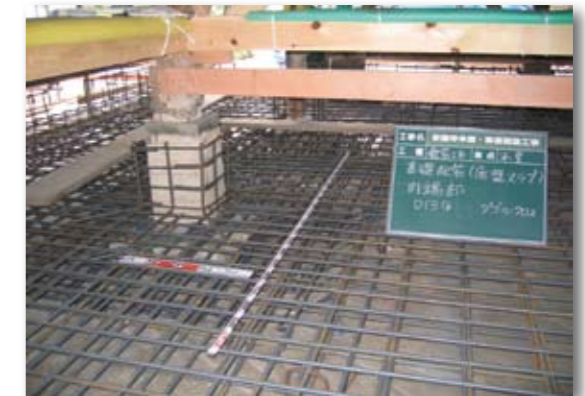
その考えに基づき(準動的評価法)、制震ダンパーを用いた木造建築物の耐震性能評価手法により、耐震金物補強ではなく、伝統軸組み工法の特性を活かす木造専用制震金物(仕口ダンパー)と土壁パネルを併用し、既存本堂の変形能力をより高め、地震に備える補強対策を行っています。

選定理由

伝統的建築物を耐震化する事業は、島根県において文化を支える意味で重要です。この工事では、①木材専用制震金物(仕口ダンパー)と土壁パネルを併用し、既存本堂の変形能力をより高める補強対策を実施、②木造伝統軸組み工法は接合部により大きな変形能力をもち、鋼材に比べ、小さな強度の素材で構成されながら、粘り強く靱性に富んでいることを評価されるべき構法との姿勢をもって取り組んでいる点が評価されました。



本堂外観



基礎改修



耐震荒壁パネル



仕口ダンパー

耐震事業部門

耐震事業部門

優秀賞

題名 | 奥谷町東区防災隊の活動
所在地 | 松江市奥谷町
事業主体 | 奥谷町東区防災隊 隊長 松浦 靖

提案概要

奥谷町東区では、だんだんと高齢化する現在、元気な者が男・女問わず活動することで、我が町内の人命・財産は町内に居住するものが守るため、自主防災組織である防災隊を結成しました。

今までに取り組んだ事業は次のとおりです。

- ①町内会下部組織として、防災隊規約作成・防災隊組織・防災マップ・町内全家族構成調査で隊員届を作成(12班結成、班長を中心に取組)しました。
- ②松江市防災委員会に加入、委員会企画の諸研修会に参加、リーダー研修会に11名参加、内女性1名参加しました。
- ③松江市消防署予防課にお願いし、防災に関する知識、訓練(ロープ結束、非常食作り試食・救護救援・避難誘導・消火器取り扱い・耐震車体験等)をしました。
- ④昨年の風水害で山肌崩壊で即隊員の協力で行政に速報善処できました。
- ⑤防災隊の住宅の耐震に関するアンケート「NPO法人しまね住まいづくり研究会」にお願いしてピックアップをしてもらい、耐震化対策を提言してもらいました。
- ⑥火災報知器を町内会員に設置をお願いして、95軒取り付け(一人暮らし高齢者宅には全戸取り付け)しました。

選定理由

「町内の人命・財産は町内に居住するものが守る」との決意のもと防災活動に取り組んでいます。具体的には、防災隊規約を作成し防災隊を結成し、防災マップ等をつくっています。松江市・松江消防署・NPO法人しまね住まいづくり研究会の協力のもと、研修会等による防災に関する知識・訓練・対策について学習を行うと共に火災報知器を町内95軒設置しています。

これらの一連の活動が評価されました。



防災会議状況



緊急持出袋



防災地図

防災活動部門

防災活動部門

奨励賞

題名 | 古民家改修「囲いの家」

設計者 | 宇佐美建築設計室 代表 宇佐美 淳

提案概要

古い民家は、今やだんだん後継者不足や、古くなったから住みづらい、使いづらい、との理由でどんどん取り壊されて姿を消しつつあります。

又、各地の地震でも影響を受けているのは、古い建物が多いという実態があります。

しかし、古民家には、現在の住宅にない、力強さ、大胆なつくりや、びくともしないような豪快な架構があり、今ではなかなか調達出来ないような材料が使われています。

そこには、手づくりの温もりや存在感が感じられました。

そこでなんとか耐震補強をしながらでも、現代の生活様式やニーズにあった計画が出来れば、保存再生の糸口になるのではないかとこの思いから、古民家改修「囲いの家」を提案しました。

選定理由

古民家に多く見られる田の字形平面は、壁量が少なく一般的に耐震性に劣ると考えられていますが、この提案は、古民家の良さを生かし、住まいとしての機能を損なわない耐震改修工法です。建築物利用上の制約とならないよう新たに設置する耐震壁をすべて下屋部分に配置し、それに水平力を伝達する補強方法が、今後のモデルとなることを期待します。

■ 既存母屋・垂木

■ 小屋筋交い補強

■ 既存小屋束

■ 桁行筋交い補強

■ 既存柱・梁

■ 新設垂木・野地屋根
・構造用合板

■ 構造用合板

■ 面材補強

■ 新設囲い・筋交い
・水平トラス

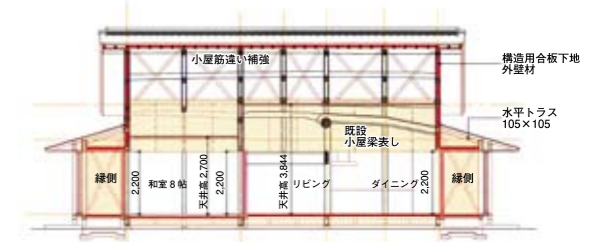
■ 基礎固め・一本化



改修前平面図



改修後平面図



改修後断面図

設計提案部門

設計提案部門

奨励賞

題名 | 附帯屋根瓦工事耐震化及び耐震改修

事業主体 | 有限会社瓦のハタノ 代表取締役 波多野 伸考

提案概要

近年各地で多発している地震被害による附帯部分の屋根瓦破損被害を最小限に食い止め、人々の居住空間をより安全・強固にし、人々の暮らしに安心を届けたく発案しました。

地震災害の被害環境をみると、倒壊以外の屋根被害は棟部(峰部)の破損脱落から平部(地葺き破損へと連鎖し被害の拡大を招いているのが主な原因と考えられます。

この棟構造を分析し、在来との比較研究を行った結果、附帯屋根材を躯体構造に一体化することにより地震の揺れに対し瓦及び固定軸の協調振動により棟瓦の脱落・蛇行を防ぐ効果を得ることが出来ると確信いたしました。この一体構造工法は瓦を支える土台を従来使用してきた「湿式材料」から「劣化・腐食」をしにくい素材を使用した構造になっています。

一体構造工法の採用により

- ①地震災害の予防(波状に広がる家屋被害域を最大限予防)
- ②地震被害の減災(居住空間の確保)
- ③一般市民参加による防災地区の確立(避難路の確保)
- ④公共施設及び災害時避難指定場所の安全性確保
- ⑤老朽化家屋改修工事における地震対応力強化
- ⑥屋根重量の軽量化及び対応年数の長期化
- ⑦使用棟資材の構成は、エコ材料を主とし棟1m当たりの廃材は土嚢袋約6袋に減、使用されている瓦は破損することなく取り外し再施工が可能等の効果があります。

選定理由

受賞者が独自に開発された耐震工法であり、屋根の軽量化も図られています。一般的に、耐震的に不利とされる瓦屋根に関する耐震工法の開発は、石州瓦の産地である本県において大きな意義があります。

今後、瓦業界の更なる発展の一役を担うことも期待します。

屋根の崩壊を未然に防ぐ 驚きの棟内部形成 一体工法

棟部と屋根地を棟芯材(PS樹脂)で緊結し、躯体と棟構造部を一体化。棟瓦との結合を実現することにより、防災力を格段に向上させました。練り土は一切使用しないため、空間が保て、換気効果で屋根使用材料の乾燥力を高めます。



特許 第 3727931 ■瓦屋根における棟芯材の取り付け構造

耐震 | 耐震試験において、阪神大震災以上の震度にも耐え得る強さを実証



[試験状況] 垂直静止状態

島根県産業技術センターで行った [瓦屋根標準設計・施工ガイドライン 第Ⅱ編第2章標準試験]において、

重加速度 1G [980ガル] の
耐震試験に合格

- ▶ 中地震(震度 5)は 150 ~ 250 ガル
- ▶ 大地震(震度 6)は 250 ~ 400 ガル
- ▶ 阪神大震災(震度 7)は 818 ガル

軽量 | 1m 当たりの台土重量約 50kg が 1/10 の重さまで減量

今までの屋根の総重量負荷率を軽減するため、老朽化した家屋のリフォームにも最適。

完全乾式シールド工法 21 は、今までの施工方法を一から見直しました。その結果、練り土の重みから解放され、自重が 100kg の瓦を 10kg の軽量部材で支える新技術を開発。脅威の強さと軽さを実現することができました。



見えない中身こそ大事な部分。瓦葺きの施工方法が変わるだけでこんなに屋根が軽くなります！

奨励賞

題名 | ボートピア松江ビル

所在地 | 松江市寺町

事業主体 | 日本海観光株式会社 代表取締役 中村 豊

設計者 | 寺本・小草共同設計事務所
代表 株式会社寺本建築・都市研究所 代表取締役 寺本 和雄

施工者 | 鹿島建設・森本組共同企業体
代表 鹿島建設株式会社広島支店 執行役員支店長 市橋 義臣

提案概要

松江寺町地区活性化対策として、旧やよいデパートを改修して場外舟券売り場を含む複合施設としました。1階は飲食店、パチンコ等のテナントスペース、2・3階に舟券売り場、4階は独立した別施設(当初スケートリンク)が入っています。

荷重を減らすためもあり、6階建てを4階建てに変更、2階客席と4階は吹き抜けのある開放感あるスペースとなりました。

直接2階に上がる階段、エスカレーターを設置するため、床を抜くなどの構造変更があり、耐震強化として大きなブレースを入れています。デザインは旧やよいデパートの時代のピンクと白のイメージを一新し、ブレースを含め、全体をメカニックなものとしています。

地区の要望に答え、通り抜け通路を1階中央に設けたほか、清潔感を重視し内部を白を基調とした色彩計画としています。なお、その後、4階スケートリンクは福祉施設に模様替えされ、昨年、地下スペースを利用してライブハウスがオープンしました。

選定理由

6階建てを4階建てに変更し、内部に開放的な吹き抜け空間を造り、また、補強対策として建築物外周部に大きなブレースを入れる改修方法やデザインが大胆で斬新な発想で行われています。大規模建築物を耐震改修して上手く活用する模範的な事例となっています。



南側外観



正面庇・ブレース



内部入口



客席

耐震事業部門

耐震事業部門

奨励賞

題名 | 岩田邸
所在地 | 安来市黒井田町
事業主体 | 岩田 達雄
設計者 | 建築設計事務所飴屋工房 代表 足立 正智
施工者 | 株式会社大島工務所 代表取締役 大島 末久

提案概要

明治時代後期の古い木造2階建て民家の主屋及びこれに附属する2階建て離れの耐震改修を行いました。主屋は太い梁と格子状に組んだ伝統工法による建築であり、特に老朽化は見られませんでした。耐震診断では低い数値となりました。

廻り縁のある間取りであり、また予算的な理由もあって、床下の足固めと湿気防止、仕口ダンパーによるフレームの耐震化を行い、特に壁改修による耐震化は行いませんでした。

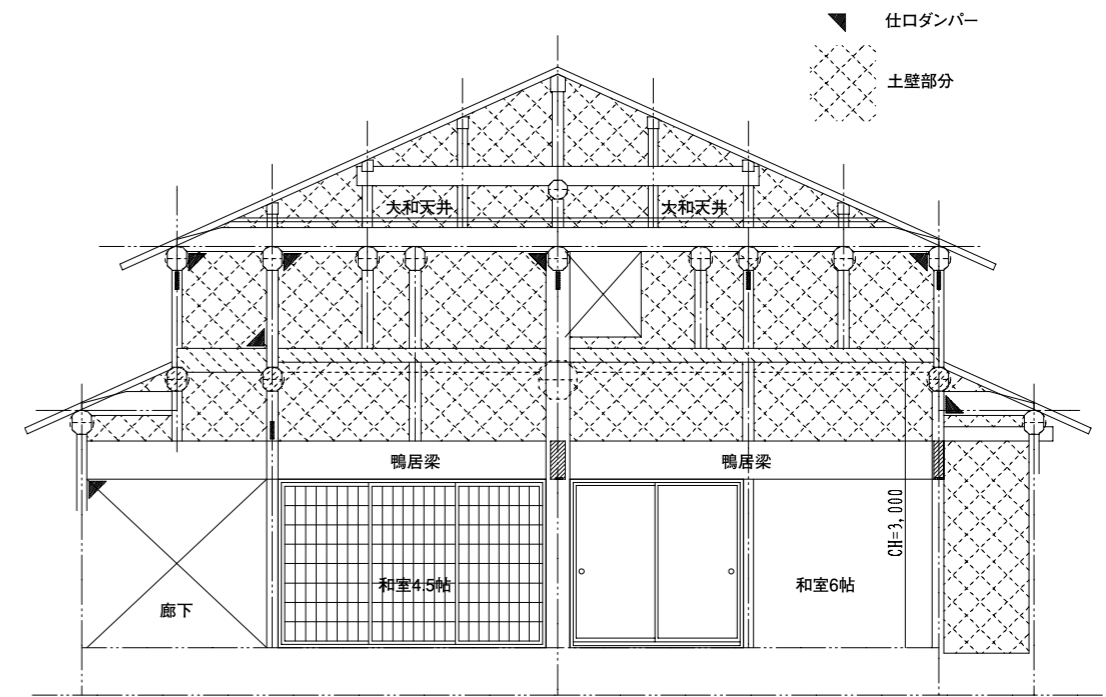
離れは、1階が車庫で、内部に壁がなく、2階に居ると揺れがひどいため、壁に設けた構造用合板と筋違いで耐力壁を確保し、ホールダウン金物をアンカー打ち込みで新設しました。

横方向の揺れは車庫という用途上壁を設けることが出来ず、方杖的に斜材を設けて揺れ止めとしています。

選定理由

明治時代に建てられた古民家を、耐震診断を行ったうえで、当時の構造材を生かして壁の補強をせず、限られた予算の中で耐震改修工事を実施されたことに創意・工夫が見られます。

このような古民家は県内にも多数あり、今後の波及効果も期待します。



改修断面図



小屋部の仕口ダンパー



梁部の仕口ダンパー



方杖の金物



ホールインアンカー部

奨励賞

題名 | 松江しんじ湖温泉駅
所在地 | 松江市中原町
事業主体 | 一畑電気鉄道株式会社 代表取締役社長 大谷 厚郎
設計者 | 田中正夫建築設計事務所 代表 田中 正夫
 | 有限会社松島建築設計事務所 代表取締役 松島 順治
施工者 | 一畑工業株式会社 代表取締役社長 中林 秀行

提案概要

薄い屋根、小さな柱のみが連立する、壁のないシースルーな建築を考えた時、構造フレームを美しくデザインすることが重要な課題となります。

そこで、この計画では以下のことについて考慮することにより、バランスの良い構造体とガラスで囲まれたシースルーな美しい建築を提案することに腐心しました。

1. ブレースの数をX・Y方向それぞれ1カ所にまとめ、配置を工夫する。
2. ガセットのデザインと取り付け方法を考慮する。
3. ブレースもパイプを使用して、ガセットとの取り付けもデザインする。
4. 柱も肉厚のものを使用して、サイズを出来る限り小さくする。
5. 壁と構造体を離すことで、ガラスの壁の透明なデザインを自由にする。

選定理由

耐震設計による建築物はデザインの的に重厚となりがちです。この駅は構造フレームがしっかりと配置され、耐震性能も十分に確保しながらも、軽妙で透明感のある建築物となっています。

開放的な空間を保ち、構造フレームを美しくデザインする工夫が今後のモデルとなることを期待します。



東側外観



待合室



外部の柱・斜材



ガセット

奨励賞

題名 災害避難所におけるプライベートスペース「6家族のためのささやか安心空間」の試作および組立てマニュアル DVD 制作事業

事業主体 株式会社つみっく 代表取締役 三島 昌彦
災害被災者を支援する「いずも」の会 代表 川本 眞信

提案概要

本プロジェクト「ささやか安心空間」は島根発で全国に向けて発信できる事業であり、以下の取り組みを行います。

- 下記条件を満たす「空間」の開発(ハード)
 - 「素人(ボランティア)でも設営できる」と同時に「余震にも安心な」空間
 - 一人一人の個人、少なくとも家族単位に対応する空間
 - 避難所で生活者にほっとしていただける癒し空間
- 素人が簡単に設置できるための組み立て作業マニュアルDVDの制作
- 上記空間が被災地に速やかに届くための「支援モデル」の構築(ソフト)
危機管理→被災者支援ツールの「分散備蓄スタイル」導入
- 「空間」と「支援モデル」。島根県から避難所生活向上の具体例を提示
この取り組みにより、以下の効果も期待できます。
 - 材料の多くが県内の生産材料(県産材杉の活用)
 - 県外の被災地で活用されたときの島根県のイメージアップ
(本事業は9月14日に、平成19年度「県民いきいき活動促進事業」として採択され、すでに活動が始まっています。)

選定理由

体育館等の災害避難所において、プライバシーの確保が逼迫した課題となっています。被災住民が県産杉材で作ったブロックを積んで「ささやか空間」を手軽に作って、自分の居場所を確保する手法開発の取り組みは重要と考えます。被災地で活用されることを期待します。

島根から 三つのニューコンセプト発信
ささやか安心空間

- 避難所生活 雑魚寝からの開放**
安全でプライバシーを重視した空間はあたり前
- 地元から始める地域間の相互扶助**
災害時支援ツールの分散備蓄という考え方
県外で島根県が感謝される取り組み
- 支援ツールの地産地消 先進モデル**
地域資源の活用と雇用創出

活用しながら備蓄
Recombination for Izumo V.C.
天井部分 ささやか空間ベットの用パネル転用
朗読ボランティア 録音用防音ブース

日常備蓄の使用例 tsumic 二重壁ルーム

つみっくだからできる Recombination
storage 保管時
Recombination
ささやか安心空間 奥行50cmの着替えスペース
救援物資収納棚
組換え Version 01
ブロックを組替えると・・・

プロジェクトチャート
新しい常識作り

設計・試作 → 検証・仮使用 デモ → 改良 — 記録・組立マニュアル DVD → 普及活動・分散備蓄の考え方 回収・備蓄 → 活用備蓄 → 災害発生 → 被災地での活用

平成19年度 しまね建築・住宅コンクール受賞者一覧

賞名	題名	受賞者		
最優秀賞	松江市雑賀八区町内会救助隊	事業主体	雑賀八区町内会	会長 竹内 武夫

■設計提案部門

優秀賞	しまねの木の家	事業主体 施工者	カナツ技建工業株式会社	代表取締役社長 金津 任紀
		設計者	有限会社アイエムユウ建築設計事務所	代表取締役 山根 秀明
奨励賞	古民家改修「困いの家」	設計者	宇佐美建築設計室	代表 宇佐美 淳

■耐震事業部門

優秀賞	安国寺本堂改修工事	事業主体	宗教法人安国寺	代表役員 赤木 大観
		設計者	蔵本総建コンサルタント	代表 亀山 英嗣
		施工者	有限会社角田工務店	代表取締役 角田 米生
奨励賞	附帯屋根瓦工事耐震化及び耐震改修	事業主体	有限会社瓦のハタノ	代表取締役 波多野 伸考
奨励賞	ポートピア松江ビル	事業主体	日本海観光株式会社	代表取締役 中村 豊
		設計者	寺本・小草共同設計事務所 代表 株式会社寺本建築・都市研究所	代表取締役 寺本 和雄
		施工者	鹿島建設・森本組共同企業体 代表 鹿島建設株式会社広島支店	執行役員支店長 市橋 義臣
奨励賞	岩田邸	事業主体	岩田 達雄	
		設計者	建築設計事務所飴屋工房	代表 足立 正智
		施工者	株式会社大島工務所	代表取締役 大島 末久
奨励賞	松江しんじ湖温泉駅	設計者	田中正夫建築設計事務所	代表 田中 正夫
		設計者	有限会社松島建築設計事務所	代表取締役 松島 順治
		施工者	一畑工業株式会社	代表取締役社長 中林 秀行

■防災活動部門

優秀賞	奥谷町東区防災隊の活動	事業主体	奥谷町東区防災隊	隊長 松浦 靖
奨励賞	災害避難所におけるプライベートスペース「6家族のためのささやか安心空間」の試作および組立てマニュアルDVD制作事業	事業主体	株式会社つみっく	代表取締役 三島 昌彦
		事業主体	災害被災者を支援する「いずも」の会	代表 川本 眞信